World Trends

マクロ経済分析レポート

南ア･ランド相場を巡る動きの背景とは

～ラマポーザ新体制への期待、ズマ氏退任観測が楽観視の追い風に～

発表日：2018年１月23日（火）

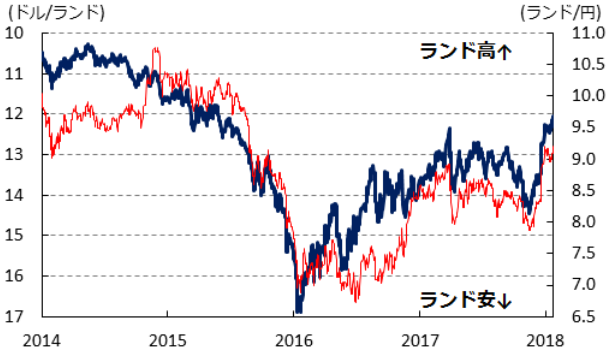
第一生命経済研究所　経済調査部
担当 主席エコノミスト 西濵　徹（03-5221-4522）

（要旨）

- 足下の国際金融市場は世界的な「カネ余り」に加え、世界経済の自律回復を背景に活況を呈するなか、先月末以降は南アフリカ･ランド相場が急上昇している。先月の与党ＡＮＣ議長選でラマポーザ副大統領が勝利したことで改革期待が相場を後押ししている。筆者は当初事態は早々に動かないと予想したが、現地報道などでは与党内でズマ大統領の任期前退任を推す声が高まっている模様であり、足下の動きはそうした観測が好感されている。ただし、足下の状況は過度に楽観に振れている可能性には注意が必要と言える。
- ラマポーザ氏は新議長就任以降ズマ氏への圧力を強めており、その矛先は疑惑の中心にあるインド系富豪にも向かっている。汚職に対する「粛清」の動きはラマポーザ氏の求心力向上に繋がる一方、ズマ氏の求心力は確実に低下している模様だ。最も楽観的な見通しではズマ氏は月内にも退任に追い込まれる見通しであり、ラマポーザ新体制が構築される。ただし、来年の総選挙に向けてラマポーザ氏が掲げる急進的な改革の進展は期待しにくい上、ズマ氏自身の訴追可能性を勘案すれば与党分裂に至る可能性もくすぶる。今後のランド相場は引き続き与党内の権力闘争の動きが綱引きしあう展開が続くことは避けられない。

- 足下の国際金融市場は世界的な「カネ余り」に加え、世界経済の自律回復の動きを背景に活況を呈する展開が続いているなか、先月末以降は南アフリカ・ランドを取り巻く環境変化を好感する形で活況を呈する動きがみられる。この背景としては、先月行われた与党アフリカ民族会議（ＡＮＣ）の議長選では、ラマポーザ副大統領が新議長に選出されたことが大きく影響している。議長選は、現時点で 2019 年に予定される次期大統領選の「前哨戦」としての色合いが強く、現職のズマ大統領の下で同国経済や財政状態のみならず、ズマ氏自身やその周辺を巡る汚職問題が多発し、与党内でのズマ氏の求心力が低下するなか、ラマポーザ新議長の下で建て直しが図られるかに注目が集まっている。なお、ズマ大統領の任期は現時点で 2019 年５月と１年強残されており、筆者自身も先月の議長選直後には、議長選を通じてラマポーザ氏陣営と有力対抗馬となったドラミニ=ズマ氏（ズマ大統領の元妻）陣営との間で苛烈な選挙戦が行われたほか、僅差での勝利に留まったことから混乱状態が続くと予想した（詳細は 12 月 19 日付レポート「南ア、与党ＡＮＣ議長にラマポーザ副大統領」をご参照下さい）。事実、与党内の最高意思決定機関である「全国執行委員会」のメンバーがラマポーザ氏陣営とドラミニ=ズマ氏陣営に二分する事態となったことは、ラマポーザ新執行部による政策遂行の足かせになることが懸念されたほか、ズマ大統領の早期退陣に向けた機運の芽を積むことが懸念された。しかしながら、ラマポーザ氏は、産業界のみならずＡＮＣの有力な支持団体である労働組合から厚い支援を受ける形で新議長に就任したことも追い風に、現地報道などによると、ラマポーザ新執行部の下で初めて開催された全国執行委員会において、ラマポーザ氏がズマ大統領の任期前退

図　ランド相場(対ドル、円)の推移



（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

任を求める動議を提案し、その可否について検討する方針が明らかになった。こうしたズマ大統領の早期退任観測もランド相場を大きく押し上げる要因になっているとみられ、足下では約２年半ぶりの水準に上昇するなど、ここ数年は長期に亘る国際商品市況の低迷やズマ政権を巡る混乱などを理由に調整圧力が掛かってきたランド相場を取り巻く環境は大きく改善している。ただし、現状においてはこれらの動きは「観測」の域を出ていない上、退任時期についても月内といったものから、年内といったものまで大きくバラついていることを勘案すれば、足下の動きはやや過度な楽観に振れたものと捉えることが出来よう。

- なお、ラマポーザ氏は新議長の就任後に行った演説において、ズマ政権下で深刻な状況にある汚職問題や職権濫用問題といった課題に果断に対応する方針を示しており、これらの様々な疑惑にまみれているズマ氏及びその周辺に対する「宣戦布告」の姿勢をみせていた。昨年以降、ズマ氏の友人で有力な支持者であるインド系富豪及び同氏が所有する企業を巡る疑惑が高まるなか、昨年秋に米国ＦＢＩ（連邦捜査局）が汚職捜査を開始するなどズマ氏の「外堀」を埋める動きが出ていたが、ラマポーザ氏の姿勢を受けて同国の検察当局も捜査に動かざるを得ない事態に追い込まれている。その後、検察当局は関連企業が政府資金のマネーロンダリングの「隠れ蓑」に利用されていた容疑で酪農場を差し押さえるなど実力行使に出ているほか、ラマポーザ氏自身も検察当局に対して迅速な行動を採ることを求めている。また、インド系富豪を巡っては、ズマ大統領との関係の近さを理由に国営石油公社（ＥＳＫＯＭ）から多額の利益を得た疑惑が出ているほか、この件に関連して国際的な会計事務所やコンサルティング・ファームがスキャンダルに関わっていたことが明らかになるなど、世界的にも問題が広がる可能性が指摘されている。こうしたなか、ＡＮＣの全国執行委員会はＥＳＫＯＭの全役員の入れ替えを決定するなど、国営企業に対するズマ氏の影響力が低下していることを示す動きも出ている。このように、ラマポーザ新執行部は発足から１ヶ月間で腐敗問題に対する「粛清」の動きを強めることにより、与党ＡＮＣ内の求心力を大きく高めることに成功しており、こうしたこともラマポーザ氏を支持する陣営が月内にも行われる予定の施政方針演説を前にズマ大統領の退任を強硬に求める動きに繋がっている。なお、同国では 2007 年末のＡＮＣ議長選でズマ氏が当選した後、翌 2008 年に当時のムベキ大統領がズマ氏率いるＡＮＣ全国執行委員会からの辞職勧告を受けて任期前に辞任した例がある。当時は、ズマ氏はＡＮＣ議長ではあったものの、2005 年に汚職疑惑を理由に副大統領職を罷免された際に下院議員を失職していたこともあり、ＡＮＣ副議長であったモトランテ氏が翌 2009 年の総選挙を見据える形で後任の大統領に就任し、総選挙とその後の大統領選を経てズマ氏が受け継ぐ形が採られた。このように考えると、仮にズマ氏が大統領職を退任すれば後任にはラマポーザ氏が就任し、あらためて来年の総選挙に向けた仕切り直しの動きが強まることが予想される。激烈な党首選が行われた後でも挙党体制が築かれる例は世界的にもあることを勘案すれば、同党が同様の動きをみせる可能性はあるものの、ラマポーザ氏が掲げる構造改革は労働者や一国民の立場でみれば「痛みを伴う」ものであることを勘案すれば、来年の総選挙を見据えてそうした姿勢が維持し得るかは不透明である。さらに、ズマ氏の大統領辞任は訴追の蓋然性を高めることになり、そのことが選挙戦でのズマ氏陣営からの巻き返しを誘発することで派閥闘争、ひいては党の分裂といった最悪の事態に繋がることも懸念される。その意味では、足下の楽観視が過度に触れている可能性には注意が必要であるほか、仮にズマ氏が早期に退任に追い込まれた場合においても、その後実態を伴う形で変化の道筋を描くことが出来なければその時点がピークとなることも十分に考えることが出来る。先行きのランド相場を巡っては、引き続き与党ＡＮＣ内における動きやその観測などが綱引きしあう展開が続くことは避けられないとみられる。

以　上

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。